

THE LATEST DOSHISHA



法人部

●同志社総長に松山義則総長が就任

四月一日、松山義則総長が同志社総長に就任。松山総長は十六代総長として四期目となる。任期は一九九七年四月一日から二〇〇一年三月三十一日まで。

●一九九七年度入社式挙行

四月三日、大学神学館礼拝堂にて入社式を挙行した。本年度の四月一日付採用は、大学教員十九名、女子大学教員二名、高校教員

三名、香里中高教員四名、女子中高教員二名、大学職員七名、中学校職員一名、計三十八名である。松山総長と野本真也理事長から歓迎のことが述べられ、野本理事長から一人一人に辞令が手渡された。なお、この他に大学教員三名を九月一日付で採用予定。

●創立一二五周年記念事業計画

創立一二五周年記念事業計画は、昨年九月十一日に創立一二五周年記念事業準備委員会から「創立一二五周年記念事業計画の概要について」の報告を受け、同年十一月一日に委員会規程の制定ならびに委員会の設置を行い、準備作業から本格的な事業の策定段階に入った。

本年五月十二日開催の第二回創立一二五周年記念事業委員会では、さしあたり次の四つの柱を立てて具体的な計画を検討することとなった。他の項目については、引き続き検討が進められる。

(一) 精神教育施設および国際交流施設の建設

(二) 同志社一二五周年史

(三) クラーク記念館の復元、保存整備・活用

(四) 同志社小学校設置構想

●同志社教学懇談会を開催

同志社が建学の精神に立脚して教学を一層活性化し、充実発展させるため、校長会のもとに同志社教学懇談会を設置した。

第一回目は、五月九日に「同志社教育の質的高度化のためのとりくみ」少子化傾向への対策など」をテーマに、第二回目は、七月一日に「外国語教育を通して同志社の国際性を考える」をテーマに開催した。

●一九九七年春の叙勲受章

五月九日、国立劇場大劇場で一九九七年春の叙勲の伝達式が挙行され、本法人関係者からは、女子大学名誉教授渡邊英一氏が勲四等旭日小綬章を受章された。

●商標登録

本法人は、一九九二年七月末から商標登録を進めてきたが、本年五月十四日付特許庁の審判において、類似の商標を持つ民間企業の商標を無効とする審判請求が認定され、最終的な登録段階に入ることになった。

なお、登録を進めている商標は、「同志社」
「**W**」**W**「Doshisha」**W**「Wild Rover」**W**「ONE PURPOSE」の五種類である（ただし、商標の区分上は十種類）。

●創立一一周年記念事業募金建物タ ブレット取付け

三月二十八日、創立一一周年記念事業募金の寄付者ご芳名を記載した建物タブレットをデイヴィス記念館および新島記念講堂に設置した。

大学

●AKP25周年記念「国際教育に関するAKP—同志社交流会議」が本学で開催（巻頭グラビアに記事）

●フィンランド首相が講演

公賓として来日していたフィンランド首相パーヴォ・リッポネン氏が四月十八日、今出川キャンパス明德館一番教室で講演を行った。同首相はかねてから、来日の折には日本の大学生との交流を希望しておられたということで、本学での開催はフィンランド大使館からの要望で実現した。

演題は“Finland at the Heart of Growth in Northern Europe”（「フィンランド…北欧地域における成長拠点」）で、同国のEU加盟ならびに加盟国間の協力の意

義と環境保護への取組みなどが講じられた。また首相は学生の質問に答えて、同国と日本との関係強化を訴えた。

講演の模様はテレビ講義方式で田辺キャンパスへも同時中継され、約四百人今出川三百人、田辺百人）あまりの学生がヨーロッパの現役首相と討論する機会に浴した。

●卒業生から在学生への贈り物

——経済学部「寄付講座」開講

経済学部卒業生で組織されている同経会が準備を進めてきた寄付講座が、今春から経済学部の三年生以上を対象とした専門科目「日本経済と私の経営論」としてスタートした。全国の大学で企業や各種団体が提供する寄付講座は少なくないが、同窓団体が資金面、講師派遣においても全面的に支援するものは珍しい。外部の経営者を講師として招く専門科目授業も、本学では大学院ではいくつかあるものの、学部レベルでは初めて。同時にこの講座は、経済学部が市民に提供する初の公開講座でもある。

本講座の開設は、高度化・複雑化をたどる経済構造を理論と現実の両面からバランスよく理解することが目的で、講師を務める経営者による、視野の広い講義が行われて

いる。既に行われた前期の講義内容と講師陣の顔ぶれは、「これからの経営」〈ダイキン工業株〉代表取締役社長・井上礼之さん（'57経済卒）、「変革の時代に立ち向かう企業経営」〈21世紀型企業への新視点〉「オムロン（株）代表取締役会長・立石信雄さん（'59経済卒）」など。

本講座は三年間継続して行う予定。本年度の登録状況は学生・大学院生が計約470人、市民の受講者は毎回1000〜2000人程度が出席しており、関心の高さをうかがわせている。

●四氏に名誉学位を贈呈

同志社大学評議会は、王 相殷、黒岩重吾、土井多賀子、井植 敏の四氏に同志社大学名誉文化博士の学位を贈呈することを決定し、その贈呈式が5月29日神学館礼拝堂において行われた。（巻頭グラビアに記事）四氏の略歴は次のとおり。

王 相殷 WANG XIANGYIN

1920年3月31日生

1941年 同志社高等商業学校卒業

1952年 協成海運株式会社代表理事

1975年 大英帝国コマンド勳章受章

1980年 大韓赤十字社中央常任委員

1983年 西独十字功労大勲章受章

1991年 民主平和統一諮問会議副議長

日本国勲二等瑞宝章受章

黒岩 重吾氏

1924年2月25日生

1947年 同志社大学(旧制) 法経学部

法律学科卒業

1960年 第44回直木賞受賞

1980年 第14回吉川英治文学賞受賞

1991年 紫綬褒章受章

1992年 第40回菊池寛賞受賞

土井 多賀子氏

1928年11月30日生

1957年 同志社大学法学研究科

修士課程政治学専攻修了

1969年 衆議院議員(現在)

1986年 日本社会党委員長

1993年 衆議院議長

1996年 社会民主党党首

井植 敏氏

1932年2月28日生

1956年 同志社大学工学部電気学科卒

業

1986年 三洋電機株式会社社長

1990年 ボストン大学名誉法学博士受

領

1992年 三洋電機株式会社会長

藍綬褒章受章

●工学研究科が1997年度私立大学
学術フロンティア推進事業の選定を受
ける

本年度から文部省の学術フロンティア推
進事業が開始された。この事業は、私立大学
の大学院研究科ならびに研究所の中から、
すぐれた研究業績をあげていると同時に内
外の研究機関との共同研究を推進している
卓越した研究組織を「学術フロンティア推
進拠点」に指定し、研究施設や研究装置のハ
ードと、研究費や研究スタッフ経費等のソ
フトの両面に対して総合的に支援して私立
大学における研究基盤を強化することによ
り、わが国の科学技術の発展に寄与するこ
とを目的としている。

初年度の1997年度は、本学工学研究
科を含む12の研究組織が全国から選定され
た。工学研究科では、この事業のもとに、1
・先端材料と複雑系科学、2・生体材料と

環境適合機能、3・電磁環境とインテリジ
ェントエレクトロニクスの3つの研究プロ
ジェクトを専攻横断的に組織し、5年間に
8億5千万円の予算規模で次世代技術に大
きく貢献するこれらのプロジェクトを積極
的に推進させる計画である。

工学研究科は昨年度も、「ナノ構造ハイブ
リッドデバイス開発研究プロジェクト」が、
最先端の研究開発プロジェクトとして「ハ
イテク・リサーチ・センター整備事業」の選
定を受けており、この2つの大型の補助に
よって工学研究科の高度研究機器の整備が
大きく進むことになる。

●同志社大学東京講座がスタート

かねてより準備を進めてきた東京講座の
初回講義が、6月17日渋谷の東京山手教会
で開催され、273人の出席者が森孝一神
学部教授の「宗教からよむ『アメリカ』」と
篠原総一経済学部教授の「日本経済の構造
変化をどう読むか」の講義に耳を傾けた。東
京講座の取り組みは、同志社大学の教育・研
究成果の公開を、関西地区だけではなく全
国規模で展開しようというもの。テーマの
設定にあたっては、現代のトピカルなもの
と、キリスト教や同志社の歴史を主題とし

たものを組み合わせることで、生涯学習へのニーズの高まりや、高度化・複雑化する社会の中で、人々の関心が多様な領域へ広がりを見せていることに配慮した。

受講者の募集は、『同志社大学ホーム・ページ』や『同志社タイムス』、朝日、読売新聞の東京版、『リビング新聞』を利用して行ったが、60人の定員に対して、第1セッションは360人の申し込みがあり、急ぎよ定員枠を増やして会場も大礼拝堂に変更した。(なお、6月27日現在、のべ569人の応募がある)

この日の受講者の年齢層分布は、20代、30代が約25%ずつで全体の半数を占め、40代が約20%、50代、60代がそれぞれ10%強と続く。また、最年少は18歳、最高齢は73歳であった。

'97スケジュール

【18・30～19・20】		【19・30～20・20】	
開講 7/15(火)	●森孝一 神学部教授 「宗教から読むアメリカ」	開講 7/1(火)	●藤原隆一 経済学部教授 「日本経済の構造変化をどう読むか」
7/1(火)	「統計にみる政教分離」の日本比較	6/17(火)	「流通からみた構造変化とこれからの製造業のあり方」
7/15(火)	「民族と宗教の時代」の次にくるもの?	7/1(火)	「貿易からみた構造変化と空洞化」
		6/17(火)	「日本の経営の構造変化と日本関係」

インターネットセッションA

7/22(火)	●野本真也 神学部教授 聖書とコンピュータ
---------	--------------------------

【18・30～20・00】

開講 9/11(木)	●沖田行司 文学部教授 近代日本の「私立」する思想―新島襄の場合	開講 9/25(木)	●安校英伸 法学部教授 新しい男女雇用機会均等法 募集・採用・配置・昇進の平等な取り扱い―均等法違反の責任と救済
10/9(木)	●脱国者のアメリカ体験	9/25(木)	●ボジティブ・アクションへの取り組み―差別是正のための積極的措置
10/9(木)	●自由なる日本市民	10/9(木)	●セクシャル・ハラスメントの予防―良好な職場環境の創造
	●新島の私学思想		

インターネットセッションB

10/30(木)	●深田末来生 神学部教授 命を生かすことば―いま、新たに説教を聞こう
----------	---------------------------------------

【18・30～20・00】

開講 11/6(木)	●和田元 工学部教授 極微細の半導体	開講 11/20(木)	●亀田尚己 商学部教授 企業のグローバル化と経営言語戦略
11/6(木)	●電子と原子と光との世界	11/20(木)	●情報化時代における経営のグローバル化
11/20(木)	●イオンの鍵	11/20(木)	●グローバルビジネスの用具としての英語
12/11(木)	●小さな限界に挑む電子回路	12/11(木)	●英語とコミュニケーションと日本人(語)

【18・30～19・20】

【19・30～20・20】

インターネットセッションC

98 1/9(金)	●橋本滋男 神学部教授 福音書とイエス
--------------	------------------------

【18・30～20・00】

※受講登録料・1セッション(各3回分) 1000円

インターネットセッション(1回) 500円

●来年度入試から、アドミッションズオフィス(AO)方式を採用―自己アピール

ールや面接などで志願者を多面的に審査―

同志社大学では来年度の入試から、書類選考や面接などによって可否を判定する「アドミッションズオフィス(AO)入学審査事務室」方式による入学者選抜を導入する。2年前から準備を進めてきたもので、98年度の入試による入学者選抜ではまず神、文(英文・社会学科)、商、工の4学部で実施し、将来的には全学部で実施する計画だ。

この方式は、受験生の高校時代の成績だけではなく、学内外におけるさまざまな方面での活動や能力を多角的に評価し、合否の材料とするもので、アメリカでは多くの大学が導入している。日本では慶應大学湘南藤沢キャンパスが新設学部に限って実施しているが、既設学部を対象として全学的な導入を行うのは本学が初めてと見られる。

選抜方法は、自己アピール、志願理由などを書いた受験申込書、日本語20000字程度の自由テーマのエッセイ、調査書、出身学校の教員1人を含む2人以上の推薦書などをもとに第一次審査を行う。自己アピール

は映像などでもよく、教員以外の推薦者は例えば社会活動の指導者など、親族以外の第三者であれば認められる。第二次審査では面接を行い、各学部で最終的な可否を決定。学力試験は行わない。

従来の入試と比較すると選考には格段の時間と労力を要するが、これによって、より多面的な能力を持つ優秀な学生を選抜するのが狙いだ。いわゆる一芸入試と比較しても、志願者の自己啓発力と表現力を重視するという点で異なるものと言える。

この方式による募集定員は各学部定員の5%以内で、計60〜70人程度を見込んでいる。選抜時期は10月から11月の間。問い合わせはアドミッションズオフィス(☎075・251・4692)まで。

女子大学

●大学入試センター試験を利用する入学試験を導入

1998年度入試より学芸学部英語英文学科、日本語日本文学科、生活科学部人間生活学科、食物栄養科学科において大学入試センター試験を利用する入学試験を導入す

ることになった。募集人員は英語英文学科で15名、日本語日本文学科で8名、人間生活学科5名、食物栄養科学科では食物科学専攻、管理栄養士専攻でそれぞれ5名、3名。選考方法は大学入試センター試験の出題教科・科目の内、指定された教科・科目の試験の成績により選抜を行い、本学独自の個別学力試験等は行わない。なお、地理歴史、公民、理科等選択できる教科・科目でより多くの教科・科目を受験した者については高得点の教科・科目を合否判定に使用する。

出願期間は1998年1月6日〜1月21日で21日の消印有効となっている。また合格発表日は2月10日

●小林義武教授、第9回「辻莊一・三浦アンナ記念学術奨励賞」受賞

音楽学科・小林義武教授(音楽学)がバツハ研究に関する論文を始めたとしたキリスト教音楽研究にすぐれた業績をあげたとして同賞を授与され、1月11日立教大学諸天使礼拝堂において、授与式が執り行われた。

●同志社女子大学初の名譽学位贈呈

7月2日に田辺キャンパス新島記念講堂小礼拝堂にて元本学学長のEscher L Hibbard氏(米国カリフォルニア州在住)と元

ソウル女子大学総長、高鳳京(コ・フワンギョン)氏(韓国在住)の二人に、本学では初めての名誉学位(名誉文化博士号)を贈呈した。Hibbard氏は1929年から同志社女子学校、同志社女子専門学校で英文学を教え、1949年から本学の初代学長を務めた。高氏は1924年から7年間、日本に留学し、同志社女子専門学校、同志社大学法学部に在籍。帰国後は韓国での女性の地位向上に尽力し、1958年ソウル女子大学を創立し、初代総長となった。

●学芸学部音楽学科管弦楽団国内演奏旅行

音楽学科の学生による恒例の管弦楽団国内演奏会が行われた。指揮者・黒岩英臣氏、ピアノ演奏はS.V. Proulx本学教授の手により、9月6日に浜松・アクトシティ浜松大ホールで、翌7日には東京・サントリーホールにて、モーツァルトの歌劇「魔笛」序曲、200やベートーヴェン・ピアノ協奏曲第5番変ホ長調op.73「皇帝」、ショスタコーヴィツ・交響曲第5番二短調op.47などが演奏された。

●資格取得講座開設

在学生の資格取得を支援するために、1

967年度後期よりCareer Development

Centerを開設。平日の5講時、土曜日の3・

4講時を使って、将来に向けて実践的な力を養っていくことができる講座を用意。内容としてはTOEFL模擬試験やTOEIC講座、実用英語技能検定試験講座の他、秘書検定や簿記検定のための講座など8講座が開かれている。

●1998年度よりフェリス女学院大学との学生交流制度を開始

来年度より横浜にあるフェリス女学院大学との学生交流制度を予定している。対象は本学芸学部および生活科学部の新2・3年次生で、初年度ということもあり募集人員は2名程度。制度の概要としては、1年間フェリス女学院大学において1学科に所属する形を取り、フェリス女学院大学の正規学生に準じた取扱いとなり、学内諸施設の利用も可能。科目選択においても当該学科のみならず、他学科・他学部の科目も幅広く履修することができる。履修した科目は修得単位として30単位を上限に認定される。また、フェリス女学院大学での科目履修期間は、本学での在学期間に含まれるほか、学費は通常どおり本学の学費を納め、フェ

リス女学院大学の学費は免除となる。

なお、正式な協定締結は10月13日フェリス女学院大学にて執り行う。

●同志社女子大学リカレント学習講座

女子大学では、京都府リカレント教育推進協議会との共催で一般社会人を対象に、

9月27日(土)から毎週土曜日に8回にわたる、1997年度同志社女子大学リカレント学習講座「日本語の世界」を開催する。女子大学の吉野教授をコーディネーターに、毎回異なる講師による講座が開かれる。会場は女子大学今出川キャンパス楽真館2階のR209教室で、開講時間は13時30分～16時45分まで。各回の講座内容・講師は以下の通り。

第一回「日本語はどこから来たか」
(女子大学教授 吉野政治)
第二回「敬語今昔(いまむかし)」
(女子大学専任講師 森山由紀子)
第三回「ことばのゆれと変化」
(女子大学助教授 服部 匡)
第四回「古典の世界から」
(女子大学教授 楠橋 開)
第五回「方言の世界」
(神戸市外国語大学助教授 中居幸比古)

第六回「外国語からみた日本語」

(大学専任講師 沈 力)

第七回「日本語教育の現場から」

(女子大学専任講師 河野俊之)

第八回「京ことばの世界」

(女子大学講師 木村恭造)

高等学校

●新任教諭・講師オリエンテーション

本年度新任教諭は国語科・理科各一名
4月7日(月)
4月8日(火)

●入学式

新入生四〇七名のうち女子二一五名
(うち外部中学出身者四四名) 男子一九二名(うち同四六名)
5月8日(木)

●遠足

●中間試験
5月23日(金)～28日(水)

●宗教週間
6月2日(月)～7日(土)

講師 川上 盾(東神戸教会)

滝口 宣(久が原教会)

草地賢一(PHD協会)

●教育実習
6月2日(月)～14日(土)

キリスト教科三名ほか二四名

●保護者面談
6月9日(月)

● 期末試験

7月4日(金)～9日(水)

● 二・三年生団体鑑賞

7月10日(木)

東京演劇集団風「ヘレン・ケラー」

於新島記念講堂

● 一年生クラス合宿

7月11日(金)・12日(土)

小松学舎ほか8会場にて

● 弁護士安保千秋氏「子どもの権利条約の精神を学校の現場の中でどう生かすか」

同和委員会主催の人権学習の一環として、右の論者と標題を得ての講演会をもった(6月18日(水))。いじめや登校拒否問題の現状、校則や体罰などの実例を切口に、子どもの権利条約の内容と意義について紹介があった。同志社教育の長所を再確認するとともに、自己満足や思い込みのうちに陥弊や反省すべき点もあることを気付かされ、学ぶところの多い有益な会であった。資料として配られた和洋の条約文は大変参考となった。このほか、沖繩市在住の有銘政夫氏を招き、沖繩をめぐる平和と人権についての感銘深い講演会もあった(5月16日(金))。

香里中高

● 始業式

1月8日(水)

● 中1同和アッセンブリー

1月16日(木)

● 校祖永眠記念礼拝

1月22日(水)

河野仁昭氏「新島襄と蘭学」

● 中学入試

1月29日(水)・30日(木)

● 高校入試

2月5日(水)・6日(木)

● 高3学年末テスト

2月7日(金)～15日(土)

● 中2同和アッセンブリー

2月13日(木)

● マラソン大会

2月20日(木)

● 中3同和アッセンブリー

2月27日(木)

● 高2以下学年末テスト

3月1日(土)

● 高校卒業式

3月8日(土)

P.T.A会誌『香里の丘』一二〇号発行

● 終業式・中学卒業式

3月19日(水)

● スキー学校

3月20日(木)～25日(火)

● 新入生登校日

3月21日(金)

【一九九七年度】

● 入学式

4月8日(火)

● 始業式

4月9日(水)

● 中1校祖墓参・オリエンテーション

浜名湖、2泊3日

4月17日(木)

● P.T.A総会

4月24日(木)

● 高1校祖墓参・オリエンテーション

浜名湖、1泊2日

4月25日(金)

● 中1見学(大阪城博物館)

4月25日(金)

● 遠足(中2若草山、中3神戸再度山)

4月25日(金)

● 高2神戸、高3鞍馬他)

4月25日(金)

● 保健の日

5月7日(水)

高田みぎわ氏「心の健康」

全校生徒検診

● 中3狂言(柿山伏・附子)

5月8日(木)

● 高1以下中間テスト

5月16日(金)～21日(水)

● 高2高3一斉テスト

5月17日(土)～21日(水)

● 中1遠足(若草山)

5月22日(木)

● 教育実習

5月23日(金)～6月6日(金)

● 高校スポーツ大会

5月26日(日)

● 中学スポーツ大会

5月27日(火)

● 宗教教育強調週間

6月2日(月)～6月7日(土)

● 特別礼拝

6月4日(水)

滝口宣牧師「心から願っている」

● 宗教教育教職員研修会

6月4日(水)

本井康博氏

「自責の杖事件に見る新島襄の変貌」

● P.T.A授業参観懇談

6月6日(金)

●高校花の日礼拝

6月10日(火)

杉本常雄牧師「フリージアの香り」

●中学花の日礼拝

6月11日(水)

多芸正之牧師「花の顔」

●中学同和アッセンブリー

6月12日(木)

●中学第一回学校説明会

6月14日(土)

授業公開

●高3文楽鑑賞

6月17日(火)

絵本太功記―尼が崎の段―

●高2歌舞伎鑑賞

6月17日(火)

双蝶々曲輪日記―引窓―

●教職員同和教育研修会

6月18日(水)

講師 樫秀晃氏「障害生徒の高校生活」

●大雨洪水警報発令臨時休校

6月20日(金)

●中学学期末考査

6月30日(月)～7月5日(土)

●高校学期末考査

7月3日(木)～8日(火)

●中1社会見学(ピース大阪)

7月10日(木)

●中3社会見学(リバティ大阪)

7月11日(金)

●終業式・学校内外大掃除

7月15日(火)

PTA会誌『香里の丘』一二一号発行

●カナダ語学研修

7月30日(水)～8月19日(火)

女子中高

●卒業式

3月17日(月)

中学242名・高校257名、「また逢う日まで」の讃美歌に送られ、卒業生は希望を胸に巣立って行った。

●中二修学旅行

3月18日(火)～20日(木)

北九州方面

長崎では被爆者の方の体験を聞き、「平和」について学んだ。

●高二修学旅行

3月18日(火)～21日(金)

沖縄の雄大な自然に触れ、また激戦区となった南部では、平和ネットワークのボランティアの方の指導の下に「壕」に入り、当時の人々の苦しみを各自の心によみがえらせながら、礼拝を守った。

●スキー学舎

一期 3月18日(火)～22日(土)
二期 3月22日(土)～26日(水)

一期は高校一年生、二期は中学三年生で、梶池高原スキー場で行われた。本校は伝統的に付き添いの教員がスキー練習の指導に当たっている。

●入学式

4月7日(月)

中学、248名

高校、外部より20名、中学から241名で

合計261名入学

●女子部創立記念日

4月21日(月)

本校の元校長、末光信三先生のお嬢様の末光清子先生(現マクリン幼稚園園長)をお招きして、デントン先生についてのお話を聞く。また、デントン先生没後五十年を記念して、ご愛用の品をホール前に展示し、そのお人柄を偲んだ。

●芸術鑑賞日

5月2日(金)

長岡京記念文化会館で、東京演劇アンサンブルによる「奇跡の人」を鑑賞、創立記念日の末光清子先生のお話にもあつた通り、ヘレンケラーはかつて本校を訪問され、講演されたこともあり、意味深い一日であった。

●中一修養会

5月17日(土)～19日(月)

本年は丹波篠山の「ユニトピアささやま」で行われた。三日間のさまざまなスケジュールを通して、本校の生徒としての心得や神について学び、祈りの心に触れる体験をした。

●花の日礼拝

6月7日(土)

生徒が持ち寄った花を壇上いっぱいに飾

り、洛陽教会牧師奈良いづみ先生のお話を聞き、神に感謝を捧げた。午後は、花を持って施設を訪問した。

●高校総体

硬式テニスとフエンシングが出場。各運動クラブの顧問・生徒が参加した。また、本年は京都が開催地であったので、総合開会式と相撲競技の運営に生徒及び教員が多数参加した。

国際中高

●入学式

本校では昨年の夏からコミュニケーションセンター設立のため、校舎新築及び増改築工事を行っている。夏休みに完成予定のため、新学期を例年より約1週間早めてスタートさせた。

●芸術鑑賞

●社会科見学

授業に支障の出る騒音を伴う工事をこの2日間に集中させた。そのため外で行われる学校行事をこの時期にまとめて行った。今年度の芸術鑑賞は大阪厚生年金会館で中高そろって歌舞伎を鑑賞した。出し物は

「双蝶々曲輪日記」から「引き窓」。事前学習の成果もあり、生徒は難しい内容を理解し、楽しんだ。

社会科見学は、例年秋に行われる行事であるが、この時期の実施もクラス親睦のためには有意義であった。

中学全学年 滋賀県立琵琶湖博物館

高校1年 京都東山歴史散策

なお散策後、4月5日大雨のため、現地まで行き中止になった校祖墓参を実施。

高校2年 飛鳥史跡サイクリング

高校3年 関西学術研究都市施設見学

●終業式

2か月間の長い夏休みに入る。この間にコミュニケーションセンターをはじめとする、いくつかの施設も完成する。コンピュータの大きな導入も目前である。すでに全校生徒が同志社国際コミュニケーションのメンバーとしてユーザーIDを登録している。2学期から、生徒達が新しい施設で生き生きと活動するのを楽しみにしている。

中学校

●入学式

新入学生 三百二十五名

4月5日(土)

●新入生オリエンテーションキャンプ

4月17日(木)～19日(土)

二期に分けて、近江八幡国民休暇村にて。

●新入生創立者墓参

4月17日(木)、19日(土)

●遠足(一、三年)

4月17日(木)

二年滋賀県松の浦、三年滋賀県希望ヶ丘にて、飯盒炊さんをしながら、新クラスメイトとの親睦をふかめた。

●生徒会委員研修会

4月19日(土)、20日(日)

宇多野ユースホステルにて、生徒会執行委員と三年ホームルーム委員による研修会

●演劇鑑賞

4月30日(水)

「山椒大夫」(京楽座)

於 同志社大学会館ホール

●スポーツテスト

5月1日(木)

●レ・リ・ヘイスリップ特別礼拝

5月13日(火)

ベトナム戦争の凄絶さを描いた「天と地」

の原作者を迎えて

●生徒大会

5月15日(木)

●一年生保護者のための学校生活案内の集い

5月17日(土)

教科・校務よりの説明と施設・クラブ見学

●全校健康診断

5月20日(火)

●教育実習

5月26日(月)～6月7日(土)

同志社大学より14名、他大学より4名

●春季宗教教育強調週間

6月2日(月)～7日(土)

「生きていることが使命」

大門義和

(近江兄弟社学園長)

「朝と共に喜びが来る」

真下

潤 (豊中教会牧師)

「陽はまたのぼる」

川上

盾 (東神戸教会牧師)

●花の日礼拝・施設訪問

6月7日(土)

「人皆に美しき種子あり」

高橋津賀子 (馬込教会牧師)

放課後、花をもってホザナとハンドベル
部員らが水上隣保館・特護老人ホームを訪
問交流した。

●英語暗唱大会

6月14日(土)

●第26回合唱コンクール

6月19日(木)

全校各クラスが学年課題曲と自由曲に挑

んだ。

●夏期キャンプ

一年(全員参加)

7月21日(月)～29日(火)

四期に分けて各期二泊三日で、京都府宮
津市由良の本校キャンプサイトで。

二年(全員参加) 7月21日(月)～8月2日(土)

四期に分けて各期三泊四日で、長野県白
馬村岩岳をベースに、唐松岳に登り、梅池
自然園を見学した。

幼稚園

一八九七年三月に出町に誕生した同志社
幼稚園は、今年が創立百周年に当り、去る三
月には第百回目の卒業生を送り出しまし
た。百周年を記念して、幼稚園では昨年十一
月から今年六月にかけて次に記す記念事業
を行いました。

(一)園児と母親による記念集会

於 同志社幼稚園

前同志社社史資料室長、河野仁昭氏の講演

「新島襄の少年時代」

11月27日(水)

(二)記念式典ならびに記念祝賀会

於 都ホテル

在園生、卒園生関係、旧教員、同志社関係者

など三百八十余名が出席

2月16日(日)

(三)記念冊子の発行

元園長の幼稚園在籍当時の思い出と同志社
幼稚園百年の歴史を記す

1月

(四)記念講演会

於 神学館礼拝堂

6月7日(土)

講師 茶道裏千家 家元 千 宗室氏

演題 「幼稚園の思い出」

(五)記念植樹

4月30日(水)

幼稚園園庭に「桜」と「花木」を植樹

(六)園庭に百周年記念総合遊具の設置

(七)百周年記念募金

キリスト教の理念に基づいた同志社の立
学の精神を順守し、百年という永い年月に
亘って同志社幼稚園の働きは守られてきま
した。現在も、園児たちには人の心を大切に
し、自然や動、植物を愛することの大切さを
語りかけ、この精神が生かされる保育に努
めております。百年という歴史の重みを真
摯に受けとめ、同志社幼稚園に集う園児た
ちの心の中に温かい思いやりが生れること
を願っています。